

JTOWER

災害に強い首都 東京に向けて — インフラシェアリングで効率対策 —

令和6年12月16日

**Infra-Sharing
Services
from Japan
Lead the World**

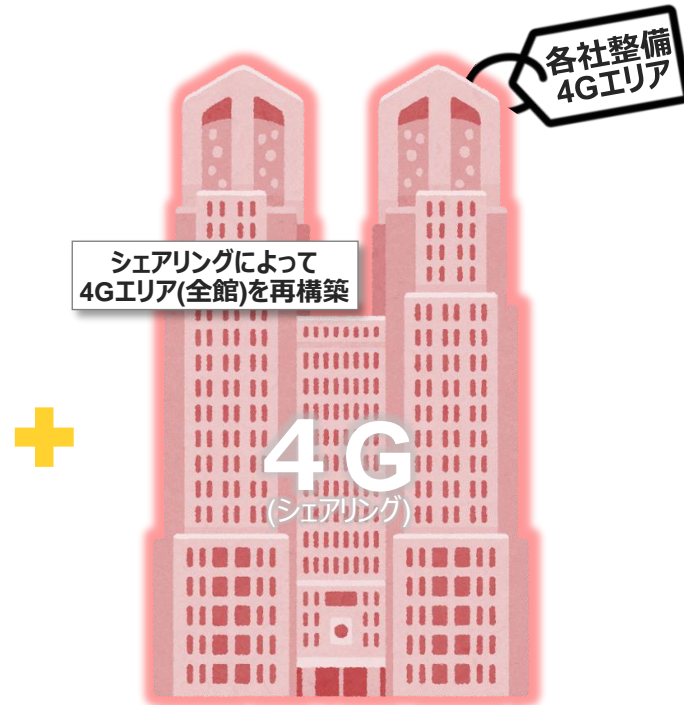
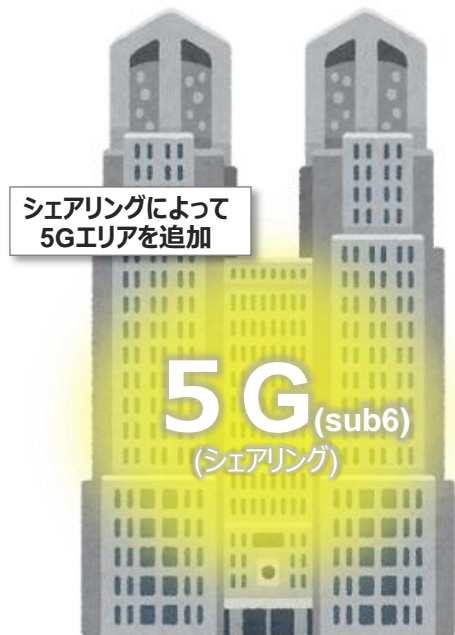
つながる東京に関する取り組み

- 2024年度において、都庁の5G対策エリアを追加、4Gについては各社整備からシェアリングに切替え
- 庁舎内の通信環境の改善に加えて、機器設置スペース、ケーブル数、使用電力の削減にも貢献

都庁 本庁舎の屋内対策を 東京都及び携帯電話事業者と協力して実施

Sub6帯を活用した
5G対策エリアの追加

各社の既設4G設備を
シェアリング化



島しょ部での不感地解消に向けた取り組み



島しょ部での不感地対策
共用鉄塔局のイメージ



- 都内の防災上重要な建物においては、屋内の通信環境も整備し、災害時の通信断リスクを低減させることが有益
- 電源喪失時の対策は、東京都・事業者間で優先的な検討が必要

防災上重要な施設での対策

災害拠点病院

行政の庁舎

公園等避難場所

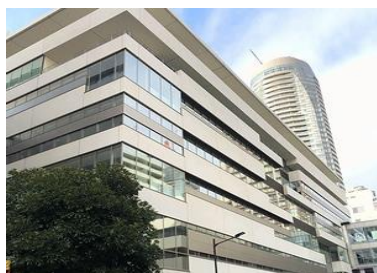
当社シェアリングでの整備状況

東京都災害拠点病院 7施設 (全体83施設)

都庁及び62区市町村の本庁舎 4施設

都立一時滞在施設 5施設 (全体223施設)

(災害拠点病院の対策例)



東京慈恵会医科大学
附属病院



虎の門病院

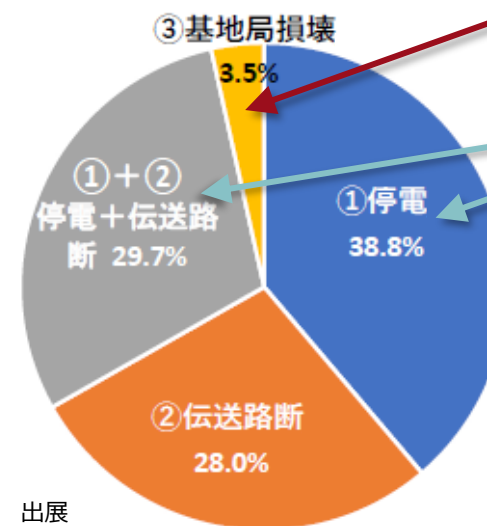


東京大学医学部附属病院

未整備の物件について、早期の整備を進めることが必要

令和6年 能登半島地震の例

携帯電話基地局停波の主な要因



シェアリングによる被害
拡大は **限定的**

停波原因の
7割が停電

電源のバックアップは
重要

出展
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r06/pdf/n1120000.pdf>

- ・シェアリングによる省電力化で給電効率が向上
- ・発電機系統 電源回路への接続

シェアリング高度化の取り組み

➤ ネットワーク整備のさらなる効率化を実現する シェアリングの高度化を推進

モバイルネットワークの階層

	現在
無線機 (CU・DU)等	MNO
フロントホール	MNO
無線機 (RU)	MNO
中継装置	シェアリング
アンテナ	
設置場所	

拡張

取組み中

MNO
MNO
O-RAN・Sub6帯域
シェアリング

基地局に共用設備のみ配置
緊急駆けつけ人員の集約化



導入メリット

消費電力削減

設備投資の効率化

基地局設置期間の短縮

設置スペース削減

運用費用の低減

運用・保守の省人化

建物内の設備をフルシェアリング

ユースケース



商業集積エリア



公共交通機関



公園

東京都、携帯電話事業者と協調し
インフラシェアリングの高度化を通して、5Gインフラ設備のさらなる推進に貢献



日本から、
世界最先端の
インフラシェアリングを。

JTOWER